

古代都市ポンペイで出土した1万点以上の動物の骨を分析するプロジェクト（イタリア サレント大学との研究協力）が実を結び、平成28年12月から平成29年2月にかけて、久留米大学・東京大学・京都大学の3カ所で、イタリアとイギリスから計3名の考古学者を招いて「国際シンポジウム 古代都市ポンペイの動物利用と街路風景」を開催し、サレント大学でもシンポジウム「古代ヴェスヴィオ山麓地域の動植物」を共催しました。

獣骨を分析した結果、ブタ・ヒツジ・ヤギ・ウシなどの家畜だけでなく、イヌ・ネコなどのペット、イタチやヤマネなどの小動物、鳥類、魚介類などのほか、ラクダやヒョウなどのめずらしい動物の骨も確認されるなど、食用、愛玩用、役畜、見世物などの動物利用の実態が明らかにされました。

国際シンポジウム 古代都市ポンペイの動物利用と街路風景 I
(平成28年12月3日(土) 京都大)

国際シンポジウム 古代都市ポンペイの動物利用と街路風景 II
(平成28年12月10日(土) 東京大)

国際シンポジウム 古代都市ポンペイの動物利用と街路風景 III
(平成28年12月8日(木) 久留米大)

シンポジウム「古代ヴェスヴィオ山麓地域の動植物」
(平成29年2月28日(火) サレント大)

